

「ウクライナの平和を訴える緊急声明」

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学に連なる私達は、ロシアの一方的なウクライナ侵攻に強く抗議します。かつての大戦で住民の四分の一以上が犠牲となった沖縄に在る大学として、ロシア軍のウクライナに対するすべての武力行使の即時停止と撤退を訴えます。

私達は、巨大なロシアの軍事力によるウクライナ侵攻に激しい動揺と怒りと悲しみを禁じ得ません。ロシア軍によって生命を落とされた人々、生命と生活と心身の健康と財産を脅かされて苦しんでいる人々の痛みを思い祈るものです。特に、私達の学院にもウクライナから来日され、学生たちを熱心に教育して下さる教員がおられますが、その言葉にならない不安と悲しみ、そして苦しみを、学院全体の祈りを通して共有したいと思います。

ロシアのプーチン大統領は、この軍事侵攻をウクライナの「自由」、「ロシア系住民の保護」のためという美辞麗句で覆って開始し、ウクライナの街を破壊し、人々の生命、安全、自由、財産を奪っています。このような身勝手な主張は、「ナチス」をはじめとした侵略者達の常套手段と変わりません。その上、原子力発電所を攻撃して占拠し、核兵器の使用を仄めかすまでに正常な認識を欠いた言動をしております。このような、非人道的・環境破壊的暴挙に強く反対します。

同時に、このような事態によって世界の平和的潮流と思想と教育が失われることを恐れます。日本でもこのような事態に対抗するために「核兵器の共有」を訴える発言が見られます。また、このような戦争事態によって、沖縄米軍基地を中心にした南西諸島の軍備強化の動きが加速することを憂慮します。

ロシアのみならず、世界の政治的リーダーたちが隣国との関係を大切に、人々の生命を守る道を優先し、あらゆる方面で平和的關係を作り上げる努力をするように強く訴えるものです。最後に、私たちの大学の教育をより平和に資する人材の育成のために努力する決意を新たにいたします。

2022年3月7日

沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学
学長 金 永秀